

競技注意事項

自然災害や感染症拡大状況等によっては、大会中止または、大会中であっても中断（中止）する場合がある。

1，競技規則について

本大会は、2023年 公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会要項及び競技注意事項、申し合わせ事項によって実施する。

2，練習について

練習は係員の指示により実施する。

原則として、その日に競技のある選手のみとする。

(1) 本トラックでの練習は競技開始30分前まで開放するが、出場選手のみとする。

フィールド競技の各ピットは、競技に支障がない範囲で、開放するが競技役員の指示に従って使用すること。

(2) 直線走路および、バックストレート外側を常時開放する。直線競技実施時には、バックストレートの一部を開放する。

雨天走路は、荒天時以外は開放しない。荒天時に開放する場合は、アナウンスで連絡する。ただし、走幅跳の競技中の動きづくり等は可とする。

(3) 投てき競技種目の練習は、投てきピットのみとし、投てきピット以外での練習は、メディシンボール等も含め禁止とする。

※競技注意事項を厳守し、事故の無いように行うこと。

3，招集及び入退場について

招集所は北器具庫および第1ゲート内（100mスタート後方）に設置する。

(1) 招集時刻は競技開始時刻を基準として下記の通りとする。

トラック競技は、競技開始20分前招集完了。

フィールド競技は以下のとおりとする。

走幅跳・走高跳 競技開始45分前招集完了。

砲丸投・混成競技 競技開始30分前招集完了。

棒高跳 競技開始60分前現地招集。

リレーのオーダー用紙は第1組目の招集完了時刻60分前まで競技者係に提出すること。

混成競技はすべての種目、招集所で招集を行う。

(2) 招集手順

① 招集開始時刻から完了時刻までの間に招集所で、競技役員にアスリートビブス、競技用シューズ、衣類及び競技場内への持ち込み物品等の確認を受ける。携帯電話や通信機器（通信機能のあるスマートウォッチ等は通信機能を切断すること）、および音楽再生機器等は持ち込めない。（TR6.3.2）代理人による最終点呼は認めない。（800m以上のトラック種目は、腰No標識を受け取る。）

② 最終点呼後、各自でトラックのスタート地点、フィールドはピットに移動する。

(3) 招集の注意事項

① 出場すべき競技種目を欠場する場合は、招集完了時刻前までに招集所の競技者係に届けを提出する。

② 招集時刻に遅れたり競技者係からのチェックを受けなかった場合、欠場したものとして処理される。

(4) 個人種目とリレーを同時に出場する競技者は、当該競技審判主任の判断により、フィールド競技について試技順を変更することができる。試技順を変更しても試技時間に間に合わなかった場合は「パス」とみなす。

(5) 入退場は係員の指示に従う。競技が終了した競技者は、係員から指示されたゲートより競技場外へ退場する。

4, アスリートビブスについて

各競技者は、プログラムに記載された番号と同じ番号のアスリートビブス（20 cm × 16 cm）を、ユニフォームの胸部と背部につける。男子は黒字，女子は赤字とする。

- (1) 跳躍競技に出場する競技者は胸部または背部どちらか片方でもよい。
- (2) 800 m以上の競技に出場する競技者はシールタイプの腰ナンバー標識をパンツの右側後方につける。腰ナンバー標識は招集所で配布し、回収はしない。

5, 競技運営について

本大会は下記の主な留意事項に基づいて運営する。

- (1) 競技運営上、競技日程及びピットを変更することがある。また、地震・雷雨等の自然災害やJアラート発動の際は、競技を中断し安全が確認された後に再開する。
- (2) トラック及びフィールド内にはその競技を行う競技者並びに役員（審判および該当補助員）以外は立ち入ることはできない。フィールド競技はコーチングエリアを設ける。競技者とコーチがコミュニケーションをとる場合のみとし、エリア内に常駐しないこと。
- (3) トラック競技において、次のラウンドの進出者を決める場合、最後の1枠に同記録者がある場合は、写真判定主任が同記録者の1/1000秒の実時間を判定して進出者を決める。その結果、記録差がない場合はレーンに余裕があれば同記録者が次ラウンドへ進出できるようにする。それが不可能な場合は、当該競技者本人または代理人の抽選とする。(TR21.5)
- (4) セパレートレーンで行うトラック競技では、競技者は安全確保のためフィニッシュライン通過後も自分の割り当てられたレーン（曲走路）を走り、他の競技者の妨害をしない。
- (5) 男子3000 mはグループスタートとする。また、天候により給水を行う。
- (6) リレー競技におけるチームの編成は次の通りである。(TR24.10, TR24.11)
 - ① リレーチームの編成メンバーは、どのラウンドにおいてもその競技会のリレーまたは他の種目に申し込んでいる競技者であれば出場することができる。（ただし、リレー2種目を兼ねることはできない。また、チーム間にまたがるメンバー変更もできない。）
 - ② どのラウンドにおいても出場するメンバーのうち2人はリレーに申し込んだ競技者でなければならない。
 - ③ 最初のラウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して、2人以内に限り他の競技者と交代することができる。
 - ④ 交代とは一度出場した競技者が他の競技者と代わることであり、最初のラウンドにおいてリレーに申し込んでいない競技者が出場する場合は交代とはみなさない。
- (7) リレー競技においてはチームの出場者は、同一系のユニフォームを着用する。（ランパン、スパッツ、メーカーロゴの違いは、同色であれば許容範囲とする。）
- (8) 4 × 100 m R競技における第2, 第3, 第4走者は自チームで用意する最大50 mm × 400 mmの粘着テープをマーカーとして1ヶ所使用することができる。なお、競技終了後、使用したマーカーは責任をもって取り除くこと。(TR24.4)
- (9) フィールド競技における競技場内での練習は審判員の指示により行う。
- (10) フィールド競技は、すべての競技者に3回の試技が与えられる。走幅跳と砲丸投においては、試技3回終了時点の記録上位8名に、さらに3回の試技が与えられる。
- (11) 走幅跳、棒高跳に出場する競技者は助走路の外側に主催者の準備したマーカーを2個まで使用することができる。
- (12) 走高跳に出場する競技者は、各自で用意したマーカーを2か所までおくことができる。（曲走路内に限る。）
- (13) 棒高跳びに出場する競技者は支柱を自分の希望する位置に移動してもよい。
- (14) 混成競技では1種目でもスタートしなかったか、また、1回も試技をしなかったときは、それ以降の種目に参加することは許されず、競技を欠場したものとみなされる。
- (15) 混成競技を除き、不正スタートをした競技者は1回目で失格とする。混成競技は、各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後に不正スタートをした競技者は、すべて失格となる。
※スタート時の不適切行為に関しては審判長によって警告「イエローカード」を

与えられることがある。本大会では2枚の「イエローカード」の提示を受けた競技者には「レッドカード」が提示され、当該種目のみを失格とする。ただし、競技会からは除外しない。(TR16.7,TR16.8,TR39.8.3)

- (16) スタートリストおよび競技注意事項等は Web サイトから確認すること。競技結果(記録)は、Web サイトから確認すること。なお、次ラウンドへの進出者一覧は、正面玄関前と招集所付近に掲示する。

6, 走高跳, 棒高跳決勝におけるバーの上げ方について

種 目	性別	競 技	練 習
走高跳	男	1m35 - 40 - 45 - 50 (53-56-59-61...) 以後 3 cm きざみ	1m30 1m50
	女	1m25 - 30 - 35 (38-41-44-47...) 以後 3 cm きざみ	1m20 1m35
四種競技 走高跳	男	1m30 - 35 - 40 - 45 (48-51-54-57...) 以後 3 cm きざみ	1m25 1m50
	女	1m15 - 20 - 25 (28-31-34-37...) 以後 3 cm きざみ	1m10 1m30
棒高跳	男	2m10 - 20 - 30 以後 10 cm きざみ	2m00 2m80
	女	1m20 - 30 - 40 以降 10 cm きざみ	1m10

- (1) 最後の1人になり優勝者が決まるまでは、上記の上げ方とする。ただし、天候その他の関係で変更することがある。
- (2) 第1位を決定する場合のバーの上げ下げは、走高跳で2cm、棒高跳で5cmとする。
- (3) 走高跳、棒高跳の練習の高さは、希望により2段階で行う。

7, 競技用シューズの規定について

- (1) WA承認リストにあるシューズを使用していることを前提に招集所にてソールの厚さチェックは不要となる。ただし、審判や審判長の権限により求められた場合はチェックする。TR5.13.3(国内 TR5.2)承認リストにない場合は事前申請が必要であるが、中学生の大会では事前申請は不要。
- (2) 本競技場におけるスパイクピンの数は11本以内とする。また、スパイクピンの長さは9mm以内とする。ただし、走高跳については12mm以内とし先端の直径は4mm以内でなければならない。(TR5.3,TR5.4,TR5.5,TR5.6)
- (3) フィールド競技用シューズのTR5.5 適応除外措置について
市販されているフィールド競技用のシューズについては適応除外となる。また、砲丸投に関しては、シューズの確認を行わない。

8, 抗議 について (TR8)

- (1) 競技の結果または行為に関する抗議は、その種目の正式発表後30分以内に監督が直接審判長に口頭で申し出なければならない。
- (2) 次のラウンドが行われる競技種目ではその結果が正式に通告されてから15分以内に申し出なければならない。
- (3) 裁定に不服の場合は委託金(1万円)を添え、総務員を通じてジュリーに文書で申し出る。なお、ジュリーの裁定が最終決定となる。

9, 表彰および学校対抗得点について

- (1) 各種目と学校対抗総合の8位まで賞状を授与する。決勝終了後、直ちに入賞者は表彰者控場所(雨天走路中央)に移動すること。(競技用ユニフォーム着用は不可。ジャージ等を着用。)
- ※該当選手が揃い次第、競技を止めずに表彰台を用いて賞状を授与する。
- (2) 学校対抗得点は、1位8点、2位7点・・・8位1点とする。
- ※ただし、1年男子砲丸投はオープン種目とし学校対抗得点には含めない。

また、地域スポーツクラブは、学校対抗総合の表彰の対象外とする。

10、その他

(1) 救護は雨天走路内医務室に設置する。応急処置は行うが、以後の責任は負わない。

(2) 商標について

商標などの規定については、「競技会における広告及び展示物に関する規定」を遵守すること。これに違反した場合は、主催者で処理する。

※競技者は、招集を受ける前にできるだけテープなどで対応しておく。また、競技役員に指摘された場合はその指示に従う。

(3) 応援・観戦について

① 声を出して応援する場合は、マスクの着用を推奨する。また、スタンドで観戦する際は、できる限りフィジカルディスタンスを確保すること。

② 競技の進行の妨げにならないよう注意すること。また、通路での応援・観戦は禁止とする。

(4) 応援横幕・のぼり旗の設置について

① メインスタンド・芝スタンドの最上部のみ設置可とする。

(5) 室内走路及び通路に敷物を利用し、場所を確保して待機場所として利用することを禁止する。また、更衣室内に常駐することは禁止する。

(6) 各校の待機場所として2階コンコースを利用する場合は、毎日抽選とし、譲り合って使用すること。(荷物は、毎日撤去。)芝スタンドは、1日目の朝に抽選を行い抽選順に入場する。(翌日以降の場所取りは可。ただし、芝を覆わないこと。)待機場所では、「フィジカルディスタンス」を十分に確保し、「3密」を避けるよう、お互いに協力すること。

(7) ゴミは原則として各校で持ち帰ること。

(8) 置き引き、盗難等の発生する恐れがあるので各自持ち物や貴重品の管理に十分注意する。

(9) 本部は雨天走路中央のダックアウトに設置する。不明な点は、大会本部に問い合わせること。

(10) 強化事業について

大会終了後、2023～2024年度県中体連強化事業強化指定選手の選考を行います。

◎選考の基準

- ・今シーズンの実績
- ・普段の練習環境や取り組みの姿勢
- ・将来性 など

※選考された選手については、強化指定選手を受けるかどうか顧問の先生を通して打診し、決定後、各学校に正式に通知します。

県新人選手動線

ハードル練習ゾーン
※通行注意

第3ゲート

第4ゲート

選手退場口

Bゾーン

Aゾーン

直線競技以テックスタート地点へ。第4ゲートから退場

第2ゲート

メイン

招集所

招集所入口

知事表彰状4回

選手退場口

直線競技は、室内走路スタート地点へ。荷物を、第4ゲートから退場

ハードル練習ゾーン
※通行注意

第3ゲート

第4ゲート

Bゾーン

Aゾーン

直線競技以外は、ゴール後バックストレート方向を通りスタート地点へ。荷物を取ったら、第4ゲートから退場

第2ゲート

第1ゲート

招集

招集所入口

メイン

如發時區<4區
總仁限區發區

直線競技は、室内走路を通り
スタート地点へ。荷物を取った
ら、第4ゲートから退場

フィールド競技会場図およびコーチングエリア

ハードル練習ゾーン

1日目 男 砲丸投決勝
男 四種砲丸投
男 1年男子砲丸投
2日目 女 砲丸投決勝
女 四種砲丸投

1日目 男 棒高跳決勝
女 棒高跳決勝

コーチングエリア

Bゾーン

Aゾーン

コーチングエリア

1日目 男 走高跳決勝
女 四種走高跳
2日目 女 走高跳決勝
男 四種走高跳

メイン

コーチングエリア

1日目 男 走幅跳決勝
2日目 女 走幅跳決勝

招集所

《コーチングエリアについて》

フィールド競技はコーチングエリアを設ける。(雨天走路内にも設置するが、審判をしている教員専用とする) 競技者とコミュニケーションをとる場合のみとするので、エリア内には常駐しないこと。

《観戦・応援等について》

通路での観戦・応援は禁止とする。
競技運営の妨げになるような応援は禁止とする。